

「ディフィニションオブフレンズ」
想定プレイ時間：2時間～3時間
想定プレイヤー人数：3～5人
シーンカウントのリミット：6

【今回予告】

あなた達はアイビー上でよく一緒にいる友人グループだ。
年齢も職業も住んでいる場所すら違うが、アイビーの中ではそんなもの、関係はない。
出会ってまだ僅かだが、とても気が合い、ずっとこのメンバーで一緒にいたような気すらする。
ある日、あなた達がいつものように、いつもの時間、いつもの場所で集まっていると、メンバーの一人が、いつまで経ってもやってこない。

どうしたのかと話しているあなた達の下へそれぞれ一通のメッセージが届く。
それはあなた達をエージェントへと任命する、マザーからのメッセージだった。

事件の鍵を握るのは、失踪した友人。
彼を追い、電子世界を駆け回り、たどり着いた先に、待っていたのは――

サイバーワールドRPG アイビーリンク「ディフィニション オブ フレンズ」
キミと未来を、つないでいく

【PCのインヴィジブルリンク】

PC共通

あなたは、アイビー上でよく行動を共にする友人グループの一人だ。
そんなに長い付き合いではないが、この友人達をととても心地よく思っている。
おすすめタイプ：友人想い

リンク

あなた達は全員、気が付いた。彼が何を言いかけ、やめたかを。
ならば、彼にかけるべき言葉は、決まっている。
そのきっかけがなんであれ、紛れもなく、
自分達は、友達だ
そう彼に伝えるために、あなた達は、エージェントに選ばれたのだ。

【NPC】

ファインダー

[PLに公開してよい情報]

友人グループの一人。口数はあまり多くないが、彼もまた、この友人グループを心地よく思っていると、PC達は感じている。

あまり特徴のない人型のアバター。（または、GMの自由に設定してよい）

[GM向け情報]

彼は反マザー組織の構成員で、彼等の持つAI「エルスイフ」の疑似未来予測エンジンによって、エージェントとなる可能性があるPC達に近づき、その時を待っていた。

しかし、PC達と過ごすうちに、演技だったはずの友情が本当の友情に変わりつつある。

（小ネタ）ファインダーはfinder→friendのアナグラムになっている。

【オープニング】

あなた達はアイビー上でよく一緒にいる友人グループだ。

年齢も職業も住んでいる場所すら違うし、互いの本名すら知らないが、アイビーの中ではそんなもの、関係はない。出会ってまだ僅かだが、とても気が合い、ずっとこのメンバーでつるんでいたような気すらする。

ある日、あなた達がいつものように、いつもの時間、いつもの場所で集まっていると、メンバーの一人「ファインダー」が、いつまで経ってもやってこない。

誰かが来れないことなどよくあることだが、その場合でもいつもはなんらかの連絡がある。

どうしたのかと話しているあなた達の下へそれぞれ一通のメッセージが届く。

それはあなた達をエージェントへと任命する、マザーからのメッセージだった。

PC達がメッセージを読むのと同時に、PC達の目の前に一体のアバターが現れる。

それはイージーマザーだった。

(PLにイージーマザーについての説明をする。

マザーの分身・配下であり、電子世界の管理を行っている。複数いる。

PCはその存在を一般常識として知っていてよい。

直接会うことはあまりない。現実世界の知事や市長などのレベル。)

以下のような台詞をイージーマザーは言う。

「はじめまして、私の名前はイージーマザー」

「あなた達をエージェントに、任命します」

「できる限りサポートさせていただきますので、よろしくお願い致しますね」

「今回の事件の鍵は、「ファインダー」というHNを持つ人物。

ええ。あなた達のご友人です。」

PCから質問を受け付けてもよい。

ただし、この時点ではファインダーが事件に関わることに、PC達が事件を解決するのに適任であることしか、イージーマザーも知らない。

質問が終わったら、以下のようなことをイージーマザーはいう。

「さて、調査に乗り出す前に、少しアイビー内での戦闘の訓練をしましょう。

この任務は、既に戦闘を行う必要があることが「予測」されています。

あまりこういうことはしないのですが、今回は「特例」です。

では、いきますよ。」

ミドル戦闘を開始する。

ミドル戦闘終了後、イージーマザーがいう。

「おつかれさまです。この調子なら、大丈夫。」

ここでMRを1点配布する。

その後、「事件の手がかりを追う1」のインヴィジブルリンクを公開する。

【場のインヴィジブルリンク】

「事件の手がかりを追う1」

あなた達が戦闘訓練を終えると、タイミングよく、ひとつの通知が、あなた達に届く。それは「ファインダー」がアイビーにログインしたことを知らせる通知だった。

トリガー：ファインダーに連絡をとる。

リンク

チャットで連絡をとろうとしたが、応答はない。

何か忙しいのだろうか？

普通にオープンエリアにいるらしく、アイビー内の位置情報も通知されている。

仕方ない、直接会いに行こう。

ネクストリンク：

事件の手がかりを追う2

「事件の手がかりを追う2」

どうやら、ファインダーはセントラルコート近くの、ビジネスエリアにいるようだ。

ファインダーに会うため、ビジネスエリアに向かおう。

トリガー：ビジネスエリアへ行く。

リンク

ビジネスエリアに到着したが、自由に出入りできるオープンエリアだけでも、かなりの広さだ。

さて、ファインダーはどこにいるだろう？

ネクストリンク：

事件の手がかりを追う3

「事件の手がかりを追う3」

ファインダーを探していると、また通知が届く。

それは今まさに探している相手、ファインダーからのメッセージだった。

メッセージの内容は、アイビー内のアドレスが書いてあるだけ。

どうやらこのビジネスエリア内にある、小さなプライベートルームのようだ。

ここへ来い、ということだろうか？

しかし、パスワードロックがかかっており、そのままでは入れない。

チャレンジ：

パスワードロックを解除する。

※クライマックスシークエンスへ移行します。

リンク

プライベートルームへと入っていくと、見慣れたアバターが一人、あなた達を待っていた。

マスターシーン「ファインダー」

【マスターシーン「ファインダー」】

「来たね。」

ファインダーが、あなた達に声をかける。
なんだかその雰囲気は、いつもの彼とは違うと、あなた達は感じるだろう。
ファインダーは、PC全員、あるいは何人かに、何か声をかけてよい。
こんな所でなにしてるんだ？ という風なことを聞かれれば、以下のように答える。

「君達を待っていたのさ。
僕はね、君達がエージェントとしてここへ来ることを知っていた。
もう一つの未来予測エンジンを持つAI、エルスイフの導きによって。」

「君達には悪いけど、君達の持つその「マスターキー」。奪わせてもらう。」

イーゼーマザーが、鋭い声を上げる。
「みなさん気をつけて、この部屋、巧妙に偽装されていますが、トラップだらけです！
それに、目の前にいる彼のアバターも、偽装されたものです！
パターン解析…… 反マザー組織「人道会」その構成員と、推測します。
攻撃——きます！！」

ファインダーのアバターが戦闘型へ変化する。クライマックス戦闘開始。
戦闘終了後、エンディングへ。

【エンディングシーケンス】

戦闘終了後、ファインダーはこのように零す。
「はは、ダメか。
ここまでお膳立てしてもなお、マザーの手のひらの上、というわけだね。」

「さて、勝者の特権だ。なにか聞きたいことが、あるかな？
たとえば、そうだね、僕が君達に近づいた、その理由とか。」

「簡単だよ。君達がエージェントになることは予測されていた。
だから近づき、この日を待った。
僕の所属する組織のため、マスターキーを奪うためにね。
まったく、君達に取り入るのは簡単だった。
簡単すぎて、まるで——」

彼はそこで、言葉を切った。

PC全員の、トリガーが起動する。
PCのリンクを読み上げてもらう。

ここから後の演出はPC達の設定やここまでの流れに合わせ、自由に行ってよい。
基本的に、ファインダーもまた彼等に友情を感じており、再会を匂わすようなことを言って
その場を去っていくのがよいだろう。